

2019 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦  
 鈴鹿サーキット  
 2019年4月20日(土)

**予選**

観客: 23,000 人

天候: 晴れ

国内最高峰のフォーミュラカテゴリー、全日本スーパーフォーミュラ選手権が開幕。これまで、5年間使用されたSF14シャシーから、今年SF19へ変更されシリーズは、新たなスタートを切った。SF14と同じく、イタリアのダラーラ社製のシャシーは、ダウンフォースが増し、引き続き供給される横浜ゴム社製のタイヤはフロントタイヤのサイズ変更が行われ、ラップタイムがアップしている。各チームにニューマシンがデリバリーされてから、2回の公式テストを経て、鈴鹿サーキットにおける初戦を迎えた。公式予選、最初のセッションQ1でアクシデントが続発、計3度の中断があった。中嶋一貴は、3度目の中断の原因となったアクシデントに巻き込まれて、不本意なQ1敗退。ニック・キャンディはQ2に進出するも、Q3への進出は果たせなかった。中嶋は、19番手、キャンディは12番手のグリッドから決勝をスタートする。



- 2種類のみディアムタイヤとソフトタイヤを使用するスーパーフォーミュラでは、Q1は、全車みディアムタイヤを装着することになっている。
- コースイン直後に赤旗が提示され、セッションが中断、Q1では合計計3度も中断した。
- 中嶋は、3度目の中断となったスプーンカーブで起きたアクシデントに巻き込まれてしまった。彼の前方でハリソン・ニューウェイ選手がハーフスピンしながら一旦コースオフ、そしてコースに戻ってきた際に中嶋は、接触されストップ。アタックできずに予選を終了することに。
- キャンディは、Q1を8番手で突破。しかし、Q2でソフトタイヤを装着すると、原因不明のグリップ不足で奮わず、12台中、12番手でQ3へ進出ならず。

Drivers	Car No.	Q1	Q2	Q3
中嶋 一貴	36	P19 11':07.789		
ニック・キャンディ	37	P8 1'38.718	P12 1'37.930	

天候	晴れ/ドライ
気温/路面温度	気温: 20-19度C   路面: 25-24度C

中嶋 一貴 36号車ドライバー



「ニューウェイ選手がハーフスピンしているのも、コース復帰してくるのも見えていたのですが、後ろから見ているとまっすぐ前に進んで行きそうだったので、左側を抜けようと思ったら接触して来たという状況です。こちらは、タイヤを温めていて、アタックもしていなかったという状況でした。クルマの状態は、悪くもなく、すごく良くもなく…。

金曜日のフリー走行では、ミディアムで何台かが速く、土曜日のフリー走行でソフトタイヤを装着すると、僅差ですがまだ速いクルマが何台かいるので、もう少しタイムアップしなければと思っていました。予選をまともに走れていないので、決勝当日のフリー走行でクルマの調子を見てから、どのような作戦に出るか考えます」

ニック・キャシディ 37号車ドライバー



「どうしてしまったのか、全く分からない。何も問題がないのに、ソフトタイヤを装着しているのにグリップ感が全然感じられなくなり、タイムが出ませんでした。決勝は、厳しいレースになると思います」

東條 力 36号車エンジニア



「当てられてしまって、どうしようもないですね。フリー走行でクルマの感触は悪くなかったのですが、予選は良い位置になれると思っていただけに残念です。実際、一回も全開でストレートを走らずに予選を終えてしまいました。明日の朝、フリー走行でクルマをチェックして、どんな作戦で行くか考えます。彼は鈴鹿を得意としているので、なんとか順位をアップできるように考えます」

**TOM'S**

VANTELIN TEAM TOM'S



小枝 正樹 37号車エンジニア



「困りました。特に何かのトラブルが発生しているというわけではなくて、グリップ感が低くてタイムアップできずに Q2 を終えてしまい、セッションで最下位となってしまいました。一体何が悪かったのか、決勝までに探り出さなければなりません。」

館 信秀 チーム監督



「走行を見ていると一貴は、トップではなかったけれど、まああの位置だったから、予選は、ソコソコの位置に行けると思っただけに残念です。ボクも現役時代に経験があるのだけれど、あのような状況下で、前のクルマがスピンしているのが見えていて、こっちには来ないだろうと思っていた方向に来てしまうということがありました。一貴のは、それだったね。しょうがない。ニックは、我がチームに加入して来て、まだピリッとした走りができていない。それが結果に出てしまいました。決勝では、作戦を練って、2台共に順位アップを狙います」

2019 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦  
 鈴鹿サーキット  
 2019年4月21日(日)

## 決勝

観客:35,000人

天候: 晴れ

2019 年全日本スーパーフォーミュラ選手権開幕戦は、荒れた展開の中、4 回セーフティーカー(SC)がコースインし、その都度レース再開を繰り返した。後方からのスタートとなった VANTELIN TEAM TOM'S の2 台は、順位を上げるべく作戦を立てスタートを切った。6 周を終え、キャンディがピットイン。タイヤ交換、給油をしてコース復帰。その後、SCが導入され、各車がピットインしたことで、キャンディは一気にポジションアップした。

中嶋は、10 位を走行していた 15 周目に、予選でも絡んだニューウェイ選手にデグナーカーブでインから突っ込まれてコースオフ、無念のレース終了となった。コース上の大多数がピットインを終えて、キャンディが3 位。前の2 台はピットインを終えていなかったため、事実上の首位で走行。その後、1 台がトラブルでストップして2 位へ。もう一台が最終ラップにピットインし、トップでチェッカーを受けた。



- 2 台共にミディアムタイヤを装着し、スタートを切った。
- キャンディは、ひとつ順位を落として 13 位を走行。6 周して作戦どおりに早めのピットインを行い再びコースイン。その 2 周後に最初の SC が導入される。ほとんどのチームがその際にピットインを行なった。SC が解除された時、キャンディは 3 位に躍進していた。前の 2 台はピットインを済ませていないので、この時点で事実上の首位。
- 中嶋は、スタートからペースも良く、一気に順位アップに成功して序盤で 10 位。15 周目のデグナーカーブに進入しようとしていたところ、後方からインヘニューウェイ選手が突っ込んで来て、2 台はアウト側へコースオフ。中嶋の初戦はそこで終わりを告げた。
- キャンディは、上位のアレックス・パロウ選手がトラブルによって S 字コーナーでストップ。そして、トップを走行していた小林可夢偉選手が最終周にピットイン。序盤、ミニマムでピットに入った戦略が功を奏し、12 位スタートから大逆転優勝を飾った。

Drivers	Car No	Race / Fastest
中嶋 一貴	36	DNF 1:44.021
ニック・キャンディ	37	P1 1:42.418

天候	晴れ/ドライ
気温/路面温度	気温 22 - 23 度C 路面温度 37- 33 度C

中嶋 一貴 36号車ドライバー



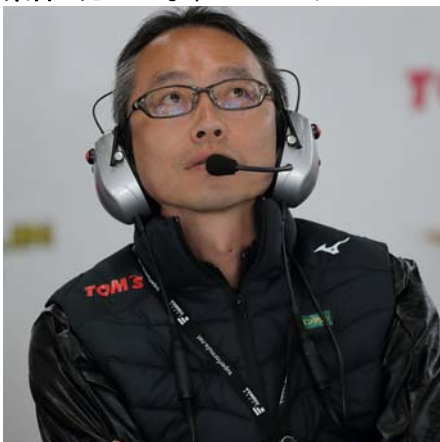
「デグナーのインで追い抜きをするのは無理なのに、彼は経験が無く、インに入り込んで来ました。クルマの調子は良くて、順位アップも出来ていたので、これからもっと順位アップしてポイントゲットはできると思っていた矢先だったので残念です。彼も、落ち着いたら謝ってきましたけれど、これもレースですからしょうがないですね」

ニック・キャンディ 37号車ドライバー



「このようなこともあるのだと…。この勝利は最初は信じられなかったです。スタートしたら、ミニマムのラップを周回してピットインするという作戦が良いと思ったので、チームの作戦勝ちですね。チームに感謝したいです。しかし、まだマシンセットアップが完璧というわけではないので、次戦のオートポリスに向けて改善すべき点は沢山あると思っています。今日の優勝は、サポートしてくれているファン、そしてスポンサーの皆さんにも感謝します」

東條 力 36号車エンジニア



「決勝を走り出してみたら、好調だったので、本当に残念ですね。それも、また昨日の予選と同じニューウェイ選手とからんでしまうとは…。まるで何かの因縁みたいです。今日は、まともにレースすることなく終えてしまって、期待していただいていたファンのみなさまには申し訳ないです。次戦に、期待していただいね」

小枝 正樹 37号車エンジニア



「作戦がハマってというか、信じられないような展開になって勝つことができました。ラッキーでした。しかし、クルマのセットアップには、まだ多くの課題が山積しているので、喜んでばかりはいられません。ファクトリーに戻って、再度チェックし改善して、オートポリス戦に臨みます」

館 信秀 チーム監督



「本当に信じられないような展開となりました。そして、新たなシーズンの開幕戦でニックが勝つことが出来てうれしいの一言ですね。ファンの皆さま、スポンサーの皆さま、ありがとうございました。そして、この幸運を授けてくれた神様に感謝しています。しかし、一貴がまた、若手の選手にぶつけられてしまうという不運に見舞われてしまったので、喜んでばかりはいられない状況です。次戦の九州、オートポリスでも、良いレースをお見せできるように、チーム一丸となって頑張ります」